

9月1日から9月30日まで防災月間です

防災セミナーに参加して

東日本大震災に学ぶ防災のポイントについて、阪神淡路の大震災を経験された相川康子さんの講演会と「避難所運営体験（HUG）」に参加した。



講演会では、「災害は社会の弱点や矛盾をあぶり出す」「阪神淡路の反省を活かせていない」との相川さんの言葉が強く残った。

続くHUG体験では、様々な事情を抱えた避難者を適切に配置していくことの難しさを体験した。例えば障がい者、単身者、家族とはくれた子ども、旅行中被災した外国人の子連れ等・・・実際には、もっと多様な背景や事情を持つ人々が避難してくるのだ・・・。

災害はいつ起こるかわからない。もしも明日、東日本大震災のような災害が起きたら、その反省を活かすことができるだろうか。そのためには、「男性＝救助活動」「女性＝炊き出し」のような旧来の性的役割分担の意識に囚われたままでいてはならないのだと思う。私たち一人ひとりが性別を超えて知恵を出し合い、想像力と主体性をもって防災に取り組む機会を持たなければと痛感させられた講座であった。

伊藤編集委員

避難所運営ゲーム HUG（ハグ）とは

- ❖ 避難所（H）運営（U）ゲーム（G）の頭文字をとったもの。
- ❖ 英語で「抱きしめる」という意味。
- ❖ 避難所の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。



鳥取市男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」NEWS

～ 学生さんの男女共同参画 ～

Part 1 鳥大生 1年の料理講習会（会場：調理室）



手前男子学生さん、ネコの手にしてがんばっています。向かいの女子と分担してやっているようです。将来もこの調子で！！

肉じゃがの完成。味見をさせてもらいましたが？？？何か違うと思いつつ、調理台をよーく見るとサバ缶発見！なかなか工夫した料理。肉じゃがなくても十分美味しい。この調理法いただき～！！



鳥取大学生協主催の料理講習会、先輩学生の指示のもと、楽しそうな調理風景を見ることができました。

男子学生さんにインタビューしたところ、「一人住まいですから結構作りますよ」と聞き、実家にも作るのかなあと思いつつ、男性だから〇〇、女性だから〇〇といった固定観念を払拭し、若い人だからできる柔軟な考え方をすすめてほしいと感じたところでした。

Part 2 南中学校 3年人権フィールドワーク（会場：研修室1）



当センター所長からの質問で「看護師さんって知っている人？」と聞くと一人も手は挙がらず。しかし「看護師さんは知っていますか？」と聞くと全員手が上がった。中学3年15才は以前「看護師さん」と言っていた時代を知らないことに驚き、消防士も英語でfire manと言っていたのが今ではfire fighterと呼んでいると聞いた。「男女共同参画」はとりたてて言うことではなく当たり前のことではないかと改めて考えさせられた。

センター職員

【輝なんせ鳥取】
鳥取市男女共同参画センター

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2丁目311番地（鳥取市福祉文化会館内）
TEL (0857) 24-2704 FAX (0857) 20-3054
E-mail danjyo@city.tottori.lg.jp
URL http://www.city.tottori.lg.jp/



鳥取市男女共同参画センター機関紙
(編集:公募した市民編集委員/発行:鳥取市男女共同参画センター)

輝なんせ鳥取

2012.12
第18号

20回目を迎えました ひとひと女と男とのハーモニーフェスタ

9月30日（日）とりぎん文化会館において「第20回ひとひと女と男とのハーモニーフェスタ」が開催されました。



オープニング：フラダンス（ブアニー・アロハフラ鳥取）

目次

- 第20回ひとひと女と男とのハーモニーフェスタ … 2・3
- 防災月間 防災セミナーに参加して …… 5
- 編集委員の「輝なんせ鳥取」講座つれづれ記 …… 4
- 「輝なんせ鳥取」NEWS 学生さんの男女共同参画 …… 6

第20回 **ひと ひと 女と男とのハーモニーフェスタ**

支え合って生き方上手～あなたの笑顔は私の元気～

平成4年に市内の女性団体やグループが集まり、活動の成果を発表する唯一の場として、女性の企画・運営による「第1回女性フェスタ」が開催されました。以来、男女共同参画社会の実現とやさしい社会づくりをめざし、男女共同参画の理念に触れていただくきっかけとなるように、実施されてきました。平成13年からは「女と男とのハーモニーフェスタ」に名称変更して、今年記念すべき第20回を迎えました。

当日は、台風の影響が心配されましたが、たくさんの方々にご来場いただき、盛大に行われました。

講演 私は決してあきらめない ～仕事も家庭も～

講師：佐々木 常夫さん
(株)東レ経営研究所特別顧問



レポート1
 自閉症の長男、うつ病の妻、年子の次男・長女、佐々木氏は4人の家族を抱えて、仕事・育児・介護に明け暮られた。家族の世話をする時間を確保するために、仕事において徹底的に効率を図る。それは、職場における人材育成にも繋がっていき、たくさんの経営学の本を手掛けるまでに。

並大抵の苦労ではないと思うが、家族を守らなくてはという切実な思いがすべてを凌駕していく。終了後「体を壊すようなことはありませんでしたか？」という質問に対して、「私が倒れたら家族はだめになると思ったから、倒れられませんでした」という氏の答えにそれが表れている。

「ハンディを持った人は意外に多い」という紹介の中で、親の介護・育児等家族の世話をしなければならない人は、2000万人ぐらいいるのではないかと言われていたのにびっくりした。会社というものが優秀な人材を揃え、効率よく仕事ができる環境を整えるのは、とても大切な問題なのだと思つた。

「自分は運がよかった」と言われていたが、親の世話をしていた子どもの方が先に倒れてしまったという話を聞いたことがある。佐々木氏もそういう方を数多く目にされて来たのではないと思う。そういうことも佐々木氏の講演会活動のエネルギーの一つになっているのではないだろうか。

岸本編集委員

レポート2
 一番の印象は「すごい人」であった。これだけ思慮深く賢い方であったからこそ、病気の伴侶と年子の子どもたち3人の養育、うち一人は自閉症、という生活を乗り切るのが可能だったのではないだろうかと思う。

講演を聞きながらふと思ったのは、これが、例えば、障がい児を持ち親の介護も…というシングルマザーは、世の中に結構いるのではないかとということである。

では、「社会的地位を守り」続けながら、家事子育て療育看病をこなした「男性」である佐々木氏は、やはりレアケースなのか？確かにそうかもしれない。し

かし、女性の社会進出めざましい昨今である。同じような状況にあって、佐々木氏のように仕事のやり方を工夫し職場自体を変革している女性管理職がいるかもしれない。あるいは、女性だからと家事育児等にウェイトを置かざるを得ない人もまた多いのかもしれない。佐々木氏のケースはレアかもしれないが、これをレアケースのままにしてはいけないのだと思う。

根強い性的役割意識を変えるのは容易ではないが、この講演を聴いた人たちが、本を読んだ人たちが、具体的に行動していかねばならないことなのだと思ふ。

伊藤編集委員

寸劇 こんな介護、あんな介護 = 日々の暮らしの中で =

出演：フェスタ実行委員



レポート3
 「高齢社会」と言われて久しいこの時代に「介護」の問題は、私たちの日々の暮らしの中で考えていかなければならないことだと思う。老々介護が増えており、また、年をとっている未婚の子どもが親の介護をするケースも多く、子どもはますます結婚しにくくなっている。

今回は、「日々の暮らしの中で」「私はただの働き手？そして佐代子の実家では…」という寸劇であった。

介護には様々な状況があり、人や家庭によってその対応も様々であると思うが、以前のように「介護は嫁(女性)の仕事」という役割分担はやめにして、家族全員、自分の親は自分で、と思う。

この寸劇を見て、いろいろ考えることができた。

センター職員



表彰 男女共同参画絵手紙コンテスト



注：入賞作品の紹介は次号で行います

レポート4
 「絵手紙」を通じて、普段から男女が性別に捉われないことなくそれぞれの役割を果たしながら、共に生きる社会を意識していただくきっかけになるようにと実施された。一般の部16人小中学生の部19人の合計55点の応募の中から入賞された。

絵と言葉のつながりも大変よく、心の和む作品が多かったと感じた。また、小中学生の部の作品では、子どもらしい視点で、純心な気持ちがよく表現されていた。

おめでとうございました。

センター職員



会場風景



小ホール

たくさんの方にご来場いただきました。男性の姿もたくさんありました。

ワークショップ

登録団体による一日限定「ショップ」を開催。たくさんの方にお買い求めいただきました。



パネル展

登録団体の活動紹介や男女共同参画に関する調査資料などのパネル展示をしました。



編集委員の **講座つれづれ記**

男女共同参画基礎講座

～いきいき生きる～



7月8日(日)「いきいき生きる」と題した男女共同参画基礎講座が開催されました。講師は山田修平さんで、男女共同参画の観点から、地域・社会の状況をわかりやすく説明され、「いきいき生きるためには」と指標となる言葉や制度利用の使い方等わかりやすく話されました。

女性を取り巻く状況として、働きながら家事・育児・介護のいずれかを背負っているということで、家族(特に夫)の協力や職場(特に上司)の理解が必要不可欠で、同時に育児・介護休業制度の充実や仕事をする上での見直し等、制度利用をどう活かせるかが大切な点だと感じました。

また、山田先生のお母様の話はとても印象深かったです。60才になられてから目標を掲げられ英語・ピアノの習得、海外旅行など、何才になってからでも学びたいという意欲を持たれているということは見習いたいことで



した。

そして、配偶者さんの介護を経て、80才を過ぎて病気を発症されたにもかかわらず、85才で一人暮らしが始まり、その数年後には白くまを見るため北海道の動物園に旅行に行かれたということです。夢を持ち、実現のために努力しつづけるという止めない生き方に感銘を受けました。

岸本編集委員

女性のための防犯対策

～護身術を学んで～



8月5日(日)「女性の防犯対策」と題した講座が開催され護身術を学びました。講師は鳥取警察署の方で、いろいろな場面を想定

して模範技術を見せていただくなど専門知識を指導していただきました。見ていると簡単そうで、自分も出来ると思ったのですが、実際具体的な動きをしてみると、手や足が逆だったり、逃げる方法が違っていたりと四苦八苦しました。しかし、この場にいなければわからなかったであろう護身術を学ぶことができ、やはり、知っておくことの大切さを感じました。

署員の方は「日頃から防犯、護身の意識をもつことが重要」と話され、帰宅後家族と復習をしました。

伊藤編集委員

